





































科目コード	65047		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ		担当者名	白取耕一郎、常浦光希、 國友亮佑、横内浩平、和所泰史、 浅野 幹也			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、公務員志望の学生を想定し、行政のリアルを公務員経験者から直接聞くことで、進路をより具体的にイメージできるようになるとともに、公務員試験の一助とすることを目的とする。アクティブ・ラーニングなどにおいて受講生の積極的な参加を求める。

### <授業の到達目標>

1. 行政のしくみを理解する。2. 進路としての行政の実態を把握する。3. 行政の基礎的な論点について他者と意見交換ができる。

### <授業の方法>

教科書を題材として、理解しにくい部分を補完しながら説明する。公務員経験者からそのテーマについての実態を聞き、質疑応答をする。その論点などについて、ペアワークやグループディスカッションで理解を深める。予習や授業で学んだことを学生同士のワークを通じて理解を深める。具体的には、Think-Pair-Share（ペアワーク）やグループディスカッションの手法で公共経営に関する論点を議論する。配付資料のダウンロード、授業アンケートの実施などにおいてICTを活用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当部分および予習用資料に目を通しておく（約1時間）。復習：授業で解説されたポイントについて、配付資料などを基に復習する（約1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

公共部門における現状についての知識を獲得し、現実の課題を戦略的に解決するための基礎を身に付ける。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 授業態度（20%）：ディスカッションや質疑における積極性、他の学生の理解促進への貢献を評価。2. 授業アンケート（30%）：毎回の授業で実施する簡易アンケートにおいて、自身の理解度や疑問点をフィードバックすることによる授業への貢献を評価。3. 期末試験（50%）：自主的な学習の達成度を評価。質問などにつき次回の授業冒頭で解説。

### <教科書>

自治研修研究会編（2020.1.10）

地方公務員フレッシュャーズブック（第5次改訂版）

ぎょうせい

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業全体の説明
2	地方公務員の心構え	基本的な心構え、職場等での執務の心構え、職場の人間関係についての心構え、私生活上の心構え
3	職場と仕事	地方公共団体の仕事を運営する仕組み、効率的・効果的な仕事の進め方
4	接遇	接遇の基本、対応の仕方
5	文書事務	地方公共団体の文書、文書事務の処理手順、公用文の作成、広報
6	地方自治制度①	地方自治の位置付け、地方公共団体の種類と事務、地方公共団体の区域と住民
7	地方自治制度②	地方公共団体の機関、国と地方公共団体との関係・地方公共団体相互間の関係等、地方分権は実践の時代へ
8	地方公務員制度①	基本理念、職員の範囲と種類、人事機関、任用
9	地方公務員制度②	職員の義務・責任、職員の権利、職員の勤務条件、給与、人材育成と人事管理、福利厚生
10	地方公共団体の税財政と財務①	地方税財政
11	地方公共団体の税財政と財務	地方財務
12	地方公共団体の主な施策①	健康の確保と福祉の充実、環境の保全、産業の振興
13	地方公共団体の主な施策②	地域発展の基盤整備、教育文化の振興、安全な生活の確保
14	地方分権の時代と地方公共団体の課題	地方分権、地方創生、地方公共団体と職員に求められるもの
15	まとめ	授業全体のまとめ

科目コード	38401		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	武道指導論		担当者名	矢野智彦、平田佳弘			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、武道（柔道・剣道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。柔道・剣道は、日本古来の伝統文化であり、それぞれ柔術・剣術から生まれ、戦う方法であった柔術・剣術を、嘉納治五郎（柔）や内藤高治・高野佐三郎ら（剣）が、単に技術を身につけるだけにとどまらず、その練習を通して、人の生き方・生きる道を示し、人間形成を目指すものに昇華させたのである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求

<授業の到達目標>

1. 武道（柔道・剣道）の理念、歴史や特性、礼法の重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。
2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。
3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身につける。

<授業の方法>

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問）
2. 今回の内容説明（講義、ワークシート）
3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション
4. 事後課題に取り組む※柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を数時間実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に、本時の内容に関する全日本柔道連盟、全日本剣道連盟のHP、また、柔道及び剣道に関する書籍を読んでおくこと。  
 （1時間程度）復習：事後課題の完成、グループワークの場合はレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科ディプロマポリシー6「体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けている。」と関連付けられています。現代社会において果たす体育・スポーツ、さらに武道の役割を深く理解し、武道に関する知識、技能、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力を培う科目がこの「武道指導論」です。武道とは何か、武道教育とは何か、武道教育の役割とは何かを、講道館柔道と剣道の観点から追求し、武道指導者としての総合

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート50%、実技試験（柔道、剣道）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

宮本武蔵（神子侃 訳）1982

五輪書

徳間書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道教育はなぜ必要か（武道教育のはたす役割）等、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	柔道の歴史	柔道の歴史について学ぶ
3	柔道の国際化①	柔道は何故世界に受け入れられたか
4	柔道の国際化②	海外における柔道指導の現状と問題点
5	柔道の指導法①	現代社会が求める柔道指導者とは
6	柔道の指導法②	中学校における教科体育の柔道指導の在り方
7	柔道の指導法③	高等学校における教科教育の柔道指導の在り方
8	柔道の指導法④	柔道の競技化と強化策
9	剣道の歴史	剣道の歴史について学習する。（平安時代～現代）
10	剣道の目的、剣道理念	全日本剣道連盟が定める、剣道の目的、剣道理念について学習する。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に進める。
12	宮本武蔵著「五輪書」（1）	「五輪書」の「序の巻」、「地の巻」について学習する。
13	宮本武蔵著、「五輪書」（2）	「五輪書」の「水の巻」、「火の巻」について学習する。
14	宮本武蔵著「五輪書」（3）	「五輪書」の「風の巻」、「空の巻」について学習する。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。

科目コード	38302		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育測定・評価		担当者名	田中 耕作			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「体育測定・評価」では、体育・スポーツ領域における目標（様々な体力要素）に対していかなる教育内容をどのような計画で実践し、いかに達成されたかを評価する。様々な目標を達成するために必要な測定を正しく実施し、適切に分析、評価することが求められる。そこで本講義ではまず一般に広く実施されている「新体力テスト」の内容と評価の理解を深め、そこから各体力項目における科学的測定とその活用方法について取り扱う。

<授業の到達目標>

各種体力測定の目的や方法を理解し、測定計画から運営が適切に行われ、そこで得られるデータを分析・評価することによって実際の体育・スポーツ現場へ応用できる力を身につける。また、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー資格取得に繋がるよう、知識を習得する。

<授業の方法>

パワーポイント等を用いて講義を行い、必要に応じて資料を配布する。受講生は講義ノートを作成すること。また、トップガンやスポーツ科学センターにて、体力測定の実践を試みる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業中に記録したノートや配布された資料、また参考書を通じてを復習すること(2時間程度)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度(実践的態度および課題提出状況) 40%、筆記試験 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

- (公財)日本体育施設協会(2012)
- 公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
- (公財)日本体育施設協会(財)健康・体力づくり事業財団(2008)
- 健康運動指導士養成講習会テキスト<下>
- (財)健康・体力づくり事業財団日本発育発達学会(2014)
- 幼児期体力指針実践ガイド(榎杏林書院)

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明
2	幼児期運動指針とは(1)	幼児期運動指針のねらいと特徴
3	幼児期運動指針とは(2)	幼児期運動指針構成と評価
4	高齢者の体力テストの内容と評価	高齢者の体力テストのねらいと特徴、構成と評価
5	新体力テストの内容と評価(1)	新体力テストの実施計画と運営
6	新体力テストの内容と評価(2)	新体力テストの評価システム
7	新体力テストの内容と評価(3)	統計処理と結果の活用
8	新体力テストの結果とその活用	新体力テストの結果と考察
9	前半までのまとめ	各種体力テストのまとめ
10	体力・運動能力の測定と評価(1)	科学的測定の重要性とその活用
11	体力・運動能力の測定と評価(2)	身体組成の評価
12	体力・運動能力の測定と評価(3)	姿勢、アライメント、関節可動性の評価
13	各種測定と評価(1)	教育・医療・福祉等における測定と評価1
14	各種測定と評価(2)	教育・医療・福祉等における測定と評価2
15	全体のまとめ	後半のまとめ及び全体のまとめ

科目コード	65019		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公務員と法		担当者名	宮園 司史			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

良好な治安を確保し、国民の生命、身体及び財産を守ることは、国の基本的な責務であるが、現在、我が国の治安は、サイバー犯罪・サイバー攻撃、国際テロ、組織犯罪といった重大な脅威に直面している。本科目では、このような責務の遂行に当たっている公安系公務員の業務を詳しく紹介するとともに、警察幹部としての経験談を交えながら、我が国の安全・安心の現状や課題、警察等における各種取組等について、幅広く取り扱い、我が国のセキュリティに関する理解と認識を醸成する。

<授業の到達目標>

公安系公務員の業務や我が国のセキュリティに関する基本的な知識を身につけるとともに、「世界一安全な日本」を実現するための各種取組についての理解を深めることを目標とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を、パワーポイントや動画等を用いて、わかりやすく解説するとともに、学生との質疑応答や学生からの意見発表の機会を設けるなどして、担当者と学生とのインタラクティブな授業を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

今回のテーマについて、新聞、書籍、刊行物、インターネットなどから必要な情報を収集するなどして、授業中に積極的な質問や意見発表ができるように準備しておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。また、体育学科のディプロマポリシー1「体育・スポーツの科学的知見を深め、スポーツを通じた国際的平和の促進について理解する能力を身に付けている。」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加状況・態度 50%、授業内レポート50%により、総合的に評価する（特に、受講態度については厳正にチェックする）。なお、規定以上の欠席回数がある場合および代筆レポートの提出その他受講態度に問題がある場合には、一切、単位を認めないので、注意すること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	安全・安心を担う仕事とは？	イントロダクションとして、担当者の警察幹部としての経験談等を交えつつ、安全・安心を担う仕事の意義、重要性等を説明する。
2	警察の任務と活動	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
3	消防の任務と活動	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
4	自衛隊の任務と活動	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
5	海上保安庁の任務と活動	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
6	我が国の安全・安心の現状（その1）	最近の事件事故の発生状況等の指数治安や、国民が肌で感じる体感治安等の現状について説明する。
7	我が国の安全・安心の現状（その2）	我が国の安全・安心を脅かしている各種の治安事象や将来の見通し等について説明する。
8	犯罪情勢と捜査活動（その1）	我が国における犯罪の発生状況や検挙状況等を通じて、昨今の犯罪情勢の特徴、傾向等について説明する。
9	犯罪情勢と捜査活動（その2）	昨今の犯罪情勢に的確に対処するための課題や捜査活動の取組の現状等について説明する。
10	国民生活の安全確保（その1）	サイバー犯罪やサイバーテロ、サイバーインテリジェンス等、サイバー空間における各種の脅威の現状等について説明する。
11	国民生活の安全確保（その2）	地域住民の安全確保に向けた各種の取組や、犯罪を抑止するために進められている諸対策等について説明する。
12	サイバー空間の安全確保	サイバー犯罪やサイバーテロ、サイバーインテリジェンス等、サイバー空間における各種の脅威の現状とその対策について説明する。
13	暴力団犯罪を巡る動向と対策	暴力団犯罪に関する昨今の動向と暴力団を根絶するための取組等について説明する。
14	薬物犯罪等を巡る動向と対策	薬物犯罪や銃器犯罪に関する昨今の動向とこれらの犯罪を根絶するための取組等について説明する。
15	テロを巡る動向と対策	我が国にとって重大な脅威となっている国際テロの現状やテロを未然に防止するための各種取組等について説明する。

科目コード	40101	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バスケットボール I (基礎)	担当者名	中川和之、國友亮佑、森徳、前川真姫			○			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。| 2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。| 3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストラーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、1時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

知識・理解（DP2:健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）及び汎用性技能（DP4:現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている）を習得する科目である。「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得すると共に、これらを実践できる力」を育成するための基礎科目であり、初年次生に対し、グループ学習を通して、バスケットボールの競技特性および競技

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席30% 授業態度 20%（個人+集団）、実技40%（平常スキル+スキルテスト）、知識レポート10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	バスケットボールの成立ち、基本技術の習得（1）	バスケットボールの歴史や競技特性について解説、ボールハンドリング技術、ドリブル技術の練習
3	ルールやコート名称・基礎技術の習得（2）	バスケットボール競技のルールやコート名称を知る。パス&キャッチ技術の練習
4	基本技術の習得（3）	シュート技術の練習①
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習②
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習③
7	基本技術の習得（6）	ディフェンス技術の練習
8	応用技術の習得（1）	2対1等の攻防（ハーフコート）
9	応用技術の習得（2）	3対2等の攻防（ハーフコート）
10	集団戦術（1）	2対2、3対3の練習（ハーフコート）
11	集団戦術（2）	2対2、3対3の練習（オールコート）
12	リーグ戦（1）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
13	リーグ戦（2）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
14	リーグ戦（3）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
15	まとめ	スキルテスト

科目コード	40201	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バスケットボールⅡ(応用)	担当者名	森 億			○			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

平成26年12月に中央教育審議会から「部科学」に答申された「新しい時代にふさわしい?接続の 実現に向けた?等教育、?学教育、?学?試選抜の?体改?について」の中で、「?校の学習指導要 領の?直し、主体的・協働的な学習・指導?法であるアクティブ・ラーニングへの?躍的充実をはかること」「?学教育もアクティブ・ラーニングへと質的に転換すること」という?葉が明記された。本授業はその答申を受け、バスケットボール競技を題材に、アクティブ・ラーニングを踏まえた授業づくりの知識と?法を学びながら、教師に必要な?と

<授業の到達目標>

①アクティブ・ラーニングの知識・スキルの習得②ファシリテーター?の知識・スキルの習得及び実 践③チームビルディングの知識・スキルの習得 上記の知識やスキル習得を試みながら、教師やコーチとしての「授業（講座）作り」及び仲間との「会話?」の向上を?標とする。

<授業の方法>

講義及び実技を通し、アクティブ・ラーニングの?法を学びつつ、授業を展開させるファシリテーターに必要な知識とスキルを学ぶ。また、?に付けたスキルを仲間との共同活動時にアウトプットさ せながら、定着状況を確認(??評価)していく。また終了後に、振り返りを仲間と共にシェアし ながら、??育成に繋げていく。また、情報や仲間の意?や考え?等をclassroom等を利?し、理解・共有できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で学んだ知識やスキルをパフォーマンスとして発揮できるように、準備（イメージ）させておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

総合的な学習経験と創造的思考?（DP:8:修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活?し、?らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能?を?に付けている。）及び汎?性技能（DP4:現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な?場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂?できるコミュニケーション能?を?に付けている）を習得する科?である。この授業は、実技向上だけでなく、指導技術の一つであるファシリテーターの知識やスキルを高める事を狙いとしながら、本学のディプロマ・

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席及び状況（態度）40% 演習状況（態度・知識・スキル等）及び活動レポート（指導案含む）60%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	第1回授業ガイダンス	授業内容説明（基本：指導及びコーチングについて）
2	講話・ワークショップ①	授業づくり（単元計画・指導案等）・グループ分け（4）
3	バスケットボール体験	バスケットボールをやってみよう
4	教材研究①	バスケスキル研究①
5	教材研究②	バスケスキル研究②
6	ワークショップ②	授業計画・指導案作成
7	ワークショップ③	デモ授業①及び授業研究・指導案検討
8	模擬授業①	模擬授業①実施及び観察・研究
9	ワークショップ④	模擬授業①振り返り及び模擬授業②の準備
10	ワークショップ⑤	デモ授業②及び授業研究・指導案検討
11	模擬授業②	模擬授業②実施及び観察・研究
12	ワークショップ⑥	模擬授業②振り返り及び模擬授業②の準備
13	ワークショップ⑦	デモ授業③及び授業研究・指導案検討
14	模擬授業③	模擬授業③実施及び観察・研究
15	総括	総括（振り返りシート及び指導案提出）

科目コード	40102		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅠ(基礎)		担当者名	坂本 博秋			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームから高度なコンビネーションプレーまで、プレーする人の能力に応じた多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは同じ人が続けて2度以上ボールに触れてはいけないと言う構造的な特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な個人技術、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な個人技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間と喜びを分かち合うバレーボールの持つ楽しさを味わう。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや技術理論を理解させ授業を進めていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得する」と共に、「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習能力」を育成する基礎科目となる。ステップアップ科目として「バレーボールⅡ」と関連している。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入(バレーボールの特性)	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
4	基礎技術について(1)	スパイク及びブロック
5	基礎技術について(2)	レシーブ、セット、サーブ
6	基礎技術の複合練習(1)	移動パス及びペッパー
7	基礎技術の複合練習(2)	ハイセット及び三段攻撃
8	基礎技術のまとめ(1)	複合練習と実技テスト
9	基礎技術のまとめ(2)	複合練習と実技テスト
10	競技規則と審判法	審判トレーニング
11	試合形式(1)	リーグ戦及び審判トレーニング
12	試合形式(2)	リーグ戦及び審判トレーニング
13	試合形式(3)	リーグ戦及び審判トレーニング
14	試合形式(4)	リーグ戦及び審判トレーニング
15	まとめ	総合的レポート

科目コード	40119		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ラグビー		担当者名	小村 淳			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ルールやラグビーの原理原則を資料とし、配付し事前学習を行う。実技などを撮影し映像でのレビューを実施する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

体育学科のディプロマポリシーに（増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている）に対応した科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦



科目コード	40120		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	サッカー		担当者名	降屋 丞			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。（2時間）  
 復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けることに加え、体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる社会的スキルを身に付ける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチの練習
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブルの練習
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キックの練習
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップの練習
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープの練習
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイントの練習
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッションの練習
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッションの練習
10	個人戦術	1対1の練習
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2の練習
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3の練習
13	グループ戦術(3)	4対4の練習
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方

科目コード	40121		区分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ソフトボール		担当者名	山本清人、原田悠平、永野毬奈			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- (1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする。

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認） 2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示） タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。 3. ディスカッション（問題提示に対する回答） 4. 省察活動（まとめ）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- (1) 予習 翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間)
- (2) 復習 振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）と関連付けられています。ソフトボール競技を通して日常的にスポーツに親しみ、かつ楽しむことを目指し、豊かな人間性を修得するための科目であり、プレーを通して体力を向上させるとともに健康を増進させ、チームスポーツで得られる他者を尊重しこれと協同する精神、公平さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うことで思考力や判断力を実践的に活用することのできる人格を修得することを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会  
「ソフトボール指導者教本」  
日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト

科目コード	40104		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ハンドボール I (基礎)		担当者名	前田 誠一			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とする。)

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、 ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的集め、内容をチェックする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付け、体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に 付ける。 体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

<参考書>

笹倉清則(2003)

「Tactics of Handba in The Word」

財団法人日本ハンドボール協会酒巻清治(2012)

「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」

池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明
2	攻撃の個人技術(1)	ゲームに必要な個人の攻撃技術
3	攻撃の個人技術(2)	シュートに着目した個人の攻撃技術
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術(1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム(1)
6	対人的技術・戦術(2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム(2)
7	グループ戦術(1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム(1)
8	グループ戦術(2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム(2)
9	ゲーム(1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム(2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(1)
11	ゲーム(3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(2)
12	ゲーム(4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(3)
13	ゲーム(5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(4)
14	ゲーム(6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(5)
15	ゲーム(7)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(6)

科目コード	40202		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)		担当者名	坂本 博秋			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とする。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや技術理論を理解させ授業を進めていく

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得する」と共に、「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力」を育成する基礎科目となる。「バレーボールⅠ(基礎)」のステップアップ科目として関連している。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ディグ(1)	ストレート、クロス、軟打
2	ディグ(2)	3人シフト、4人シフト
3	サーブの理解	フロッターサーブ、ジャンピングサーブ
4	レセプションの理解	2、3人シフト、ダブルシフト
5	ハイセット、コンビネーション(1)	6人1組によるトス(レフト、ライト)、二段トス
6	ハイセット、コンビネーション(2)	6人1組によるトス(レフト、センター、ライト)、二段トス
7	コンビスパイク(1)	6人1組でスパイク(レフト、センター、ライト)
8	コンビスパイク(2)	セッターのトスによるコンビスパイク
9	ブロックシステムの理解	バンチリード、スプレットコミットブロックシステム
10	レセプションアタック(1)	チャンスサーブからのコンビスパイク
11	レセプションアタック(2)	レセプション(6人)からのコンビスパイク
12	リーグ戦(1)	リーグ戦の実施と審判の実践(1)
13	リーグ戦(2)	リーグ戦の実施と審判の実践(2)
14	リーグ戦(3)	リーグ戦の実施と審判の実践(3)
15	まとめ	総合実技テスト

科目コード	51011	区分	コア科目				実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(保健体育)	担当者名	早田剛、 降屋丞、吉岡利貢、平田佳弘、佐藤正敏、和所泰史、赤松敏之、浦部隼希				○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、教育実習先で体育実技、保健の授業が円滑に出来るようになる授業実践力を身に付けることを目的とする。毎時間、各グループごとに学生が模擬授業を実施し、学習指導案、授業方法、内容等について、学生同士の相互評価や担当者からの助言をもらう。さらに実習後には、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として不足している力を自覚し、大学授業で補うようにし、教職を目指す者として、資質の向上を図る。

<授業の到達目標>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、保健体育科の教員としてよりよい実技授業、保健授業が出来るようにすることを目標にするとともに、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として資質の向上を図ることを到達目標とする。

<授業の方法>

まず、教育実習の心構え、実習日誌の書き方、学習指導案の作成方法等を講義形式で学んだ後、各グループ（実習校地域別）に分かれての授業になる。各グループで、学校現場で使用されている保健体育科の教科書に沿って学生が自ら模擬授業（実技・保健）を実施し、それを担当教員が指導、グループ内学生でのディスカッション、評価を重ね、実習でよりよい授業が出来ることを目指す。実技においても保健授業においても、教材・教具・授業ノート・授業プリントの工夫が大切である。なお、すべての講義において教育実習に行く服装（スーツ）・頭髪・容

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に自分の行く教育実習校でどの教科書が使用されているか、実技ではどの種目を、保健ではどの単元を担当するかを実習校に聞いて調べておき、それに沿った学習指導案を作成し、模擬授業の練習を重ねておく。模擬授業後、何が出来て何が出来なかったかをしっかり振り返り、次の模擬授業に活かしていく。特に保健授業では、専門知識が必要になるため実習で自分の担当する単元については事前にしっかり勉強しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、体育学科のディプロマポリシー8「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。」と関連づけられています。教職課程（保健体育）で身に付けた知識、技能等を実際の教育現場での授業にいかんを発揮できるか、どのように結びつけていくことができるかが求められる。さらに、豊かな人間性、幅広い教養に根ざした「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を養成する科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教育実習事前指導授業の授業態度、模擬授業評価、教育実習事後指導での教育実習報告書の作成評価、出席状況等を総合的に評価するが、教育実習校評価も重視する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習の意義と心構え (1)	教育実習の意義
2	教育実習の意義と心構え (2)	教育実習を成功させる準備と心得
3	教育実習の意義と心構え (3)	道徳・特別活動・総合学習時間の指導
4	教育実習の方法と技術 (1)	学校経営と学級経営、方針とねらい、教職員の職務と役割
5	教育実習の方法と技術 (2)	教師と生徒との人間関係、問題を持つ生徒の個別指導
6	保健体育教科の指導	学習指導のあり方、学習指導計画の意義・ねらいと立案
7	研究授業（模擬授業）の方法 (1)	中学校・高等学校に分け、また、県別に分け、模擬授業を行う
8	研究授業（模擬授業）の方法 (2)	学習指導案のねらい・内容と書き方
9	研究授業（模擬授業）の方法 (3)	教材研究のすすめ方、教科書・補助教材の扱い方、板書の工夫
10	研究授業（模擬授業）の方法 (4)	教師の言葉遣い・話し方・聞き方、机間指導・個別指導
11	研究授業（模擬授業）の方法 (5)	個別学習・グループ学習の進め方
12	研究授業（模擬授業）の方法 (6)	学習評価とその活用法
13	研究授業（模擬授業）の方法 (7)	研究授業の実際～過去の実習生の事例～
14	教育実習報告会	教育実習の反省会および報告会
15	教育実習報告書作成	教育実習記録をもとに作成

体育学部体育学科

科目コード	53012		区分	キャリア形成科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習(中学校・高等学校)		担当者名	吉岡利貢、平田佳弘、小澤尚子、和所泰史、片桐夏海			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、本学での学び(教職課程)の集大成として履修カルテを作成し、今まで履修してきた教養科目、専門科目、教職科目、教育実習等を振り返り、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを認識し、必要に応じて不足している知識や技術、技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできる力、教育実践力を身につけることである。

<授業の到達目標>

教育に対する使命感や情熱を持ち、さまざまな子どもに対しての理解力、学級経営力、生徒指導力、学習指導力等、教育現場に必要な教育実践力を身につけ、またその力で、教育現場でのさまざまな課題に対し、主体的、積極的に取り組む態度を身につける。

<授業の方法>

講義、模擬授業、ディスカッション

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

体づくり運動、器械運動、陸上競技等、学習指導要領で取り扱われる各授業におけるテーマ(題材)、また、現代の教育課題(問題)に対して、指導方法、課題解決策について事前に調べておく必要がある。模擬授業を実施する際は、各授業テーマ毎に授業案を作成しておくこと。予習：1時間(各授業のテーマに対しての指導法の確認)、ディスカッションの内容準備復習：事後課題1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は体育学科のディプロマポリシー8「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる能力の育成をする」と関連づけられている。すなわち教員養成課程のまとめが本授業である。本授業で自分の保健体育教員としての専門知識、教育実践力を履修カルテで振り返り、不足する力を発見し、補い、教育現場で円滑に教員生活が営むことができるようにする科目である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業における課題等のレポート 40%、授業における諸活動 40%、定期試験 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

文部科学省

「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

文部科学省

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	教職実践演習受講の心構え、履修カルテの記入方法、教育実習の振り返り(グループ討論)
2	教職実践演習の目的履修カルテの記入	教職実践演習の目的の理解、生徒指導、道徳、ホームルーム指導、学校組織の理解
3	教育現場の現状	生徒指導・HR指導の実際、学校組織・校務分掌等の理解
4	実技指導の留意点(1)	器械運動、体づくり運動の内容と指導の留意点
5	実技指導の留意点(2)	水泳、学校行事(スキー実習・体育祭・球技大会等)の運営
6	実技指導の留意点(3)	陸上競技(短中距離、投擲)指導の内容と留意点
7	実技指導の留意点(4)	陸上競技、体育理論の指導における留意点
8	実技指導の留意点(5)	球技(ゴール型:バスケ、サッカー、ハンドボール等)の内容と指導の留意点
9	実技指導の留意点(6)	球技(ネット型:バレーボール、テニス、卓球等)の内容と指導の留意点
10	実技指導の留意点(7)	球技(ベースボール型:ソフトボール)の内容と指導の留意点
11	実技指導の留意点(8)	武道(剣道、柔道、相撲)の内容と指導の留意点
12	実技指導の留意点(9)	ダンス(創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス)の内容と指導の留意点
13	学校事故の現状と対処法	中学校・高等学校で多く発生する事故の現状とその対策、対処法
14	保健体育科の役割と体育教師としての責務	学校現場で体育教師に求められること(部活指導、生徒指導等)について
15	今後の教育、教科「保健体育」の方向、求められる教師像	今後の教育の方向、求められる教員の資質、役割、使命感